

渡辺ハウジングOBの皆様と  
未来のお客様にお届けする

# やすらぎ通信

渡辺ハウジング  
03-3959-8743



東京では、華やかな桜の季節が過ぎ、樹々の緑が色鮮やかになってきました。この頃は、暑からず寒からず、何をするにも丁度良い

時期ですね。

ゴールデンウィークも近づき、いろいろ楽しい計画をお持ちの方もたくさんいらっしゃるでしょう。普段は、忙しく働いてくれているお父さんも一休み。ご家族お揃いで楽しい時間をお過ごしください。

今月も、先月に引き続き、私たちの大切な仲間を紹介させていただきます。仲良くしてくださいね。

だからと言って、監督業をおろそかにしているわけではありませぬので、くれぐれも誤解のありませんように！

趣味はゴルフ（ただ好きなだけ、へたくそです）と日帰り温泉。

心身ともにリフレッシュし、皆さんに喜んでいただける家づくりを目指します。



生活のスタイルは人それぞれ違います。いろいろな考えがあつて当然です。

対話を重ねる中から最良なものを見つけだし、ご提案をさせていただきたいと思ひますので、なんなりとご希望をお聞かせ下さい。

## 現場監理の皆川です。

どうぞよろしく！！

現場監督という仕事柄、大切なお客様のお住まいが無事に完成するまで一時も気が許せません。

材料の手配、職人さん達との連絡はもちろん、進捗状況の確認や建築地周辺にお住まいの方達への配慮・・・などなど数えたらきりがありません。



天気予報も気になるし、散らかった空間に居なければならない時はイライラするので、つつい目に付いた所はきれいにしたくなったり・・・。

これでは時間がいくらあつても足りなくなりそうですが、幸か不幸か整理整頓・片付けが好きなのであまり苦になりません。

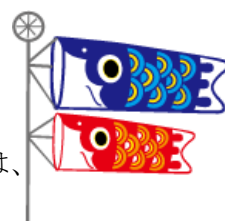
♪♪屋根より高い こいのぼり  
大きい真鯉は お父さん  
小さい緋鯉は 子供たち  
おもしろそうに 泳いでいる…♪♪

色鮮やかな鯉のぼりが、爽やかな風をいっぱいを受けて5月の空に気持ちよさそうに泳いでいます。

滝を上る鯉の勢いに、男の子の健やかな成長と出世をなぞらえて江戸時代から始まったとされています。

残念ながら最近ではあまり見かけなくなつてしまつた光景ですが、空高く泳ぐ大きな鯉のぼりは、男の子にとって嬉しくも晴れがましいものでした。

5月5日、端午の節句は「子供の日」になりましたが、我が子の成長を願う親の気持ちは、昔も今も変わらないようですね。



## 「お母さん」と呼んだ日

私がまだ小学2年の頃、継母が父の後妻として一緒に住むことになりました。

特に苛められたとかいうことはなかったけれど、なんだか馴染めなくて、いつまで経っても「お母さん」と呼べないでいました。

そんなぎくしゃくした関係だったけど、継母が私のために一生懸命だったことは子供心にもよく判っていました。

小学校4年になった夏休み、私は継母の提案で二人だけで川に遊びに行くことになりました。

あんまり気が進まなかったけど断る理由も無く、誘われるままに渋々ついて行きました。

現地に着くやいなや、私は継母を放ったらかしにしたまま川で遊びました。しばらくして急に深みにはまり溺れて、息ができなくなりました。

だんだん苦しくなり・・・意識が飛んだ。

気がつくときは私はベッドで寝ていました。

「一時心臓が止まって危なかったんだよ」と涙ぐんだ父が言っていた。

ベッドの傍らに継母がいなかったの、私は父に「あの人は？」と聞いたのです。

すると父は一呼吸置いてゆっくりした口調で教えてくれた。

私が溺れた時に、継母が服のまま川へ飛び込んで私を助け、そのまま力尽きて下流まで流され、その後救助されたものの、今も意識が戻らないのだ、と。

翌日、私は継母の病室を訪ねました。

継母は、身体中にいっぱい管をつけられ、機械に囲まれてベッドの上にはいました。そしてそのまま家に戻って行くことなく・・・

葬儀が終わった後、遺品を整理していたら、鍵のついた日記が出てきました。

私は父と一緒になんとかその鍵を探し当て、日記を読んだのです。

そこには私との関係に悩む継母の苦悩など、私のことばかり書かれていました。

読み進めていくと最後のほうにこんなことが記されていたのです。

「ちょっとはにかみ屋さんだけど、とっても良い子。あの子なら、命を掛けてでも守れる自信がある」

継母は、あの日記を書いた数日後に命と引き換えに私を守ってくれたのです。

いつだってとても優しい目で私を見ていてくれた。

いつも私の目線と同じ高さになるように中腰で話しかけてくれた。

そんな気持はちゃんと伝わってきたのに、私はあの人に何一つしてあげなかった。

愛情をもらえばなしでそれに応えなかった。

私は愛情どころかあの人命まで奪ってしまった。

日記を読んで、私は初めて「お母さん！」と大声で叫びながら、声が出なくなるまでごめんね、ごめんねと泣きました。



### 「編集後記」

今月もお読みいただき有難うございました。

5月の第2日曜日は「母の日」です。

いくつになっても、子供にとって母の存在は大きく、常に心の支えです。

普段はなかなか言えない《ありがとう》の言葉を大切なお母さんに是非伝えてくださいね。

ご意見・ご感想お待ちしております。

メールは [info@ysrg-wh.com](mailto:info@ysrg-wh.com)

FAXは03-3959-8797まで

編集責任者：渡辺 田鶴子